



卒業生が  
振り返る  
私の人生

税理士になろうと意識し出したのは、大学3年生のころだったと思います。父が自営業をやっており、まあ自分もサラリーマンになるのは違うかなと……そんな単純な動機から目指し始めたんです。



税理士になるためには、5科目の試験に合格しなければなりません。大学4年生の時に1科目の試験に受かりました。「この調子で1年に1つの試験に合格すれば、4年後には独立できるな」と自分では思っていたんですけど(笑)、残り4科目の試験がすべて受かったのは2002年。41歳の時です。つまり、20年間税理士試験に合格できなかったんです。その間は、税理士事務所にお世話になるかたちで、独立したいと思いつつも、ずっとサラリーマン生活を送っていました。

親戚のおじさんたちには「もうやめとけ」「転職しろ」「受かるわけがない」……さんざんに言われていましたね。そんな中で何も言わなかったのは父だけです。父は、私が資格を取るまで何も言わず、ずっと見守ってくれていました。父が何も言わないのは「最後までやり遂げろ」というメッセージだと私は解釈して頑張りました。母ですか？うるさかったですよ(笑)。でも、やめろとは言いませんでした。今年もダメだったという「もっと勉強しろ!」と。父と母には本当に感謝しています。



「20年かかってようやくスタートラインに立てた」。独立を果たした時はそう思いました。人より相当に遅いけれど、立ちたいスタートラインに立てたことは、本当に幸せなことだと思っています。この20年間を支えてきたものですか？ずっと「自分にしかできないことがある」

## 学生時代から目指した 税理士になる道のり。 スタートラインに 立つまで20年かかった。

日本福祉大学のOBたちのその後。

今回は、自ら「高井康人税理士事務所」を切り盛りする高井さんに、これまでの人生の道のりを振り返っていただきました。



「今度は父として、娘が転んで立ち上がる姿を、目に焼き付けたい」。



とっていました。くじけそうになった時は「きっと自分を必要としてくれる人がいる」と自分で自分に言い聞かせてきました。人と比べたら落ち込むことばかりです。だから、自分で自分のことを信じてあげる。そうして乗り切った20年間だったような気がします。



でも、自分ではそうやって生きてきたのに、娘のことになると……思うようにいきませんね。じつは、長女が大学に進学する際、私は激しい口調で口出しをしてしまったんです。娘の決断を黙って見守ることをしてやれなかった。妻に叱られました。「子どもの人生なんだから、子どもを信頼するしかない

でしょう!」。自分で親としての葛藤を体験してみて、初めて父と母の偉大さを実感しています。

だから、これからは父として何も言わないでおこうと決めています。妻も言うんです。「子どもたちは、転んで、そこから立ち上がって、大きくなってきたのよ」と。これからは、父として、子どもたちが転んで立ち上がる姿を、この目にしっかり焼き付けておこうと思っています。

独立してからは大変な日々もありましたけれど、少しずつ軌道に乗ってきたところなんです。主なクライアントは、町の八百屋さんや床屋さんなど、個人事業主の方が中心です。2～3年前

からは、やはり切実な相談が多いですね。だから、父として娘に就職活動の相談をされたら、思わず「大企業に行きなさい」とか「公務員にきなさい」とか言ってしまいそうで(笑)。

でも、子どもには、子どもの人生がある。どうしていきたいのかは、親ではなく、子どもが決めること。私が父と母にそうしてもらったように、今度は私が子どもを見守り続ける番です。

【高井さんの仕事】税理士事務所を経営している。税務相談を受けたり、納税申告書を作成したりするほか、最近は経営面での相談に乗ることも多い。経済の先行きがいまだ不透明な中、資金繰りや会社存続に関する相談も増えているという。「自分を必要としてくれる人のために」。高井さんはクライアントの声に真摯に耳を傾け、アドバイスを続けている。